

すくうるランチ



東部地域栄養教諭・学校栄養職員

がつ か にち ぜんこくがっこうきゅうしょくしゅうかん
1月24日～30日は全国学校給食週間です！

「全国学校給食週間」ってなあに？

全国学校給食週間とは、学校給食の意義、役割等について学校や家庭、地域の方の理解と関心を高め、学校給食の一層の充実発展を図ることを目的として、毎年1月24日から30日までの1週間と定められています。学校給食は、成長期の子どもたちに必要な栄養摂取はもちろん、食に関する知識や食を選択する力を養うなど、健全な食生活を営むために必要な役割について学ぶ場にもなっています。また、この期間を通し、あらためて食べ物の大切さや作る人の思いを知り、感謝の気持ちを持って食事することができるようになってほしいと思います。

感謝して食べよう！

「いただきます」は食べ物の命や食事を準備してくださった方々への感謝を意味します。「ごちそうさま」は漢字で「御馳走様」と書き、「馳走」は食べ物を集めるために奔走することに由来しています。どちらも食事に携わってくれた方々への感謝の気持ちを表します。いつも食べている給食にも、たくさんの方々の支えがあり、思いが込められています。感謝の気持ちを忘れずに心を込めてあいさつをし、給食を大切にいただきますよう。

給食の歴史

学校給食は、明治22年(1889年)山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)忠愛小学校にて開始されました。当時、貧しい子どもたちのために、おにぎり・焼き魚・漬物などをふるまったのが始まりといわれています。それ以来、全国各地で学校給食が広まりましたが、戦争で一時中断となり、給食を出すことができなくなりました。

やがて、昭和20年(1945年)に終戦を迎え、世界中の人々からの援助により、昭和21年(1946年)12月24日に給食が再開されましたが、この日が冬休みになることから、翌月の1月24日を「学校給食記念日」とし、24日から30日が「全国学校給食週間」となりました。



明治22年



貧しくて弁当を持って来られない子どもたちのために食事を出したのが学校給食の始まりでした。

昭和20年代

戦争による食料不足のため中止されていた給食が、ユニセフなど外国からの援助物資により再開されました。

昭和30年代

脱脂粉乳は子どもたちの栄養改善につながりましたが、独特な風味で苦手な子も多かったようです。このころ、パン・ミルク・おかずの完全給食が実施されるようになりました。

昭和40年代

湯で溶いて飲む脱脂粉乳は、徐々に牛乳へ切り替えられていきました。ソフト麺は、給食のために開発されました。

昭和50年代

昭和51年より米飯給食が開始され、コッペパンの時代と比べて、メニューの種類が増えてきました。

平成～令和～現在



現在では、たくさんの食品から何が自分に必要か選び考えて食べることが求められています。

そのような背景から、学校給食も単に「お昼ご飯」ではなく、食事のお手本となるように献立が考えられています。